

桑名港の推移

西羽 晃

当シリーズ（57）で「明治前期の岐阜と桑名湊」を書いたが、明治前期は江戸時代とほぼ同じような状況が続いていた。しかし明治中期からは桑名湊も変貌を遂げてきた。以後は「桑名湊」でなく「桑名港」と書く。

桑名と四日市	市の入港 船数			単位: 隻
桑名港	明治11年	明治20年	明治44年	
蒸気船	0	362	905	
西洋形帆船	0	0	0	
和船	31552	44800	12410	
四日市港	明治11年	明治20年	明治44年	
蒸気船	43	1370	1327	
西洋形帆船	0	122	33	
和船	4266	8848	5935	
(和船は50石積以上)				

(備考：統計数値は以下も含めて『三重県統計書』による)

明治11（1878）年に桑名港に入港した船は蒸気船0、和船（50石積以上）が31,552隻であったが、同年の四日市港は蒸気船43隻、和船（50石積以上）は4266隻で、和船に限っては桑名の方が断然に多い。同20年では四日市では各船とも飛躍的に増加しているが、桑名では蒸気船が大幅に増えているものの。和船の増加は少ない。同44年では四日市は各船とも減少しているが、桑名では蒸気船が増えているが、和船は大きく減っている。四日市は同22年に特別輸出港に、同30年には開港外貿易港に指定されて、海外との交易が盛んとなった。

明治24年 桑名港				四日市港			
品目	移出額 円	品目	移入額 円	品目	移出額 円	品目	移入額 円
米	2,598,080	米	2,679,270	雑貨	3,862,995	雑貨	3,530,355
麦	432,620	麦	474,524	糸	3,425,640	米	2,024,473
油	122,364	魚	64,178	米	3,347,700	糸	1,765,705
酒	40,190	呉服太物	47,313	茶	787,200	木綿	479,150
材木	31,800	材木	34,381	油	635,246	綿	434,925
その他	49,828	その他	189,551	その他	3,990,060	その他	3,928,240
総計	3,274,882		3,489,217		16,038,841		12,162,848

明治 24（1891）年の移出入額を見ると、桑名は米が 80%を占めている。木曾三川上流からの米が江戸時代と同じく桑名を経由して運ばれているが、その大半は四日市に送られ、四日市から大型蒸気船で京浜方面へ送られたようだ。四日市では雑貨（内容は不明）が移出入額ともトップだ。明治 7 年に伊藤製糸工場、同 14 年には三重紡績所が出来て、「糸」の生産が盛んとなり、それに伴い原料が送られてきて、工業港として発展してきている様子もうかがわれる。

明治44年		桑名港			
品目	移出額 円	仕向地	品目	移入額 円	仕出地
塩	120,000	愛知、岐阜	木材	187,000	牟婁郡
米	101,400	東京、横浜、紀伊沿岸	塩	155,000	四日市
木材	82,200	愛知、岐阜	米	67,500	愛知、岐阜
ソーマン	58,500	岐阜、紀伊沿岸	石炭	59,000	大阪、新宮
雑貨	43,500	愛知、岐阜、紀伊沿岸	雑貨	47,400	名古屋、四日市
その他	120803		その他	107934	
総計	526,403			623,834	

明治 44（1909）年の桑名港の移出入の状況は上表の通りである。同 24 年と比較すると、米は減り、塩・材木が増えている。表以外での移出品は大麦・搗麦・清酒・味噌・醤油（岐阜・愛知・紀伊各港）、塩魚・石炭・肥料・箆笥長持、時雨蛤缶詰（愛知・岐阜）などである。桑名港は地元の特産品も見られるが、やはり中継港の性格を続けている。

しかし桑名製造の工業製品が表れていないのはどうなのだろうか。明治 29（1896）年に桑名紡績（のち三重紡績）が出来ているが、その原料及び製品が記録されていない。桑名紡績では原料の綿花が四日市港から舩で運ばれてきて、揖斐川沿いの専用棧橋で陸揚げされていたが、桑名港外として統計には出てこないのかもしれない。製品の綿糸や綿織物も専用棧橋から出されたかもしれない。また桑名の鋳物の原料・製品や、木曾三川上流からの材木はどうなっていたのであろうか。同 27 年には桑名にも鉄道が開通し、貨物が鉄道輸送に移っていったのであろうか。いくつかの疑問点が残る。